

# 自立活動の授業づくり(引野小学校)

T: 授業者 S: 指導主事

## 1 アセスメントをもとに学習内容を考える。

T. アセスメントシートをもとに、子どもの実態から何をねらうようにするかを考えています。授業者が、子どものどんな姿を想定しているか分かりにくいので、分かりやすい言葉を使って整理しました。



S. 子どもが目指す姿を整理しておくのはいいですね。実態をもとに、子どもにどんな力をつけたいのかという目標を立てるときに役立ちますね。

※アセスメントに基づく実態表

児童名	個別指導計画の自立活動の課題	LITALICOのアセスメントの課題(教師)	LITALICOのアセスメントの課題(保護者)
	1(1)情緒の安定 3(2)他者の意図や感情の理解 5(1)姿勢と運動・動作の基本的技能 6(1)コミュニケーションの基礎的能力 (5)状況に応じたコミュニケーション	【感覚・運動面の困り】 ・触角の過敏さ ・視聴覚の過敏さ ・触角や圧迫される感覚を求める傾向 ・体全体を使った運動の不器用さ 【行動面の困り】 ・不注意 ・多動/衝動性 ・実行機能 ・情緒	【感覚・運動面の困り】 ・視聴覚の過敏さ ・触角や圧迫される感覚を求める傾向 【行動面の困り】 ・多動/衝動性 ・情緒

### 学びづくり案(修正前)

6. ふりかえりをする。	・ワークシートに、自分のめあてが達成できたか、自分や友達の前張りを書く。 ・発表する。 ☆めあての達成度を三段階の顔のマークを使うことで、分かりやすくする。 ☆ワークシートを『ぼくは、( )をがんばりました。』『( )くんは、( )をかんばっていました。』など、穴抜きにして、発表の時に自信を持って言えるようにする。
--------------	---

### 修正後

6. ふりかえりをする。	・ワークシートに、自分のめあてが達成できたか、自分や友達の前張りを書く。 ・発表する。 ☆めあての達成度を三段階の顔のマークを使うことで、分かりやすくする。 ☆ワークシートを『ぼくは、( )をがんばりました。』『( )くんは、( )をかんばっていました。』など、穴抜きにして、発表の時に自信を持って言えるようにする。				
教師の期待する姿	ふわふわ言葉をつかって友達の前張りをしている。	自分のできるところを決めて取り組んでいる。	ゲームがうまくいかなくても切り替えられる。	友達の前張っている姿を見つけてあげることができる。自分の気持ちを発表できる。	ふわふわ言葉を使って友達の前張りをしている。

単元を通して、担任として自立活動を通した子どもの姿を学びづくり案に明記しました。

T. 目指す姿を整理しているのですが、子ども自身の振り返りも「がんばりました」で終わるのではなく、どのような姿だったかを明らかにしていこうと思います。



S. とてもいいですね。授業者も、「こんな姿が見られたらいい」を整理しておけば、手立ての方向性が見えますね。例えば、「友だちに対して、優しい声かけができるようになった」など、単元を通して子どもがこんなことができるようになったらいいなということですね。そのためには、どんな支援をするか、子どものどんな姿を見るか・・・ですね。

### Point①

- ・目指す姿を「～ができる」で表してみましょう。
- ・「～ができる」ようになるために、児童の活動を考えてみましょう。

## 2 学習内容をもとに、題材と目標等を考える。

T. 自立活動は個々の実態に応じた活動になると思っているが、全体で行うこと場面もありますか。



S. 他の先生方はどう考えますか。子どもの実態が一人一人違うので同じ活動をしていても、その子の目指すことは違いますよね。全員で同じ活動をしてはいけないということはありませんが、一人一人の実態から苦手なところが少しでもできるように、得意なところを伸ばすことができるような活動を考えたいですね。

T. 学級でその子に合った活動をしていこうと思っています。本来であれば、個別で活動をしてほしいけれど、同じ活動が中心になってしまいます。それぞれの課題が当てはまる活動をどのように考えればよいか悩んでいます。



S. 特別支援学級では、複数の児童、異なる困り感をもつ児童が在籍していることが多いですよね。子どもたちの実態をもとに、幅のある題材を考えることが必要ですね。また、目指す姿に近づけるよう、個や集団の活動をバランスよく取り入れます。

### 学びづくり案

#### 修正前

○単元計画（全9時間）

時	学習活動
1/9	すごろく作りの計画を立てよう
2/9	
3/9	すごろくを作ろう
4/9	
5/9	すごろくで遊んでみよう
6/9	すごろくやゲームのルールを見直そう
7/9	なかよしチャレンジすごろくをしよう
8/9	すごろくゲームの振り返りをしよう
9/9	(なかよし学級のみんなを招待して一緒に遊ぼう)



#### 修正後

○単元計画（全9時間）

時	学習活動
1/9	すごろく作りの計画を立てよう
2/9	
3/9	すごろくを作ろう
4/9	
5/9	すごろくで遊んでみよう
6/9	すごろくやゲームのルールを見直そう
7/9	なかよしチャレンジすごろくをしよう
8/9	すごろくゲームの振り返りをしよう
9/9	(なかよし学級のみんなを招待して一緒に遊ぼう)

#### 単元設定の理由

アセスメントから自分の思いを話すことに課題のある児童が多いことが分かった。

そのため、すごろくゲームを通して、自分から他者に質問したり、お願いをしたりする活動を多く設定した。この活動から、子どもたちが自分の思いを他者に伝えられるようになって欲しいと思う。

単元設定の理由の中に、個々の実態は違うが、同じ題材を使って自立活動をする理由を載せました。



#### Point②

- ・ 児童の経験や知識、または興味・関心をふまえた題材を設定しましょう。
- ・ 学習活動をもとに重点目標を設定しましょう。

### 3 題材と目標から、到達状況の基準を考える。



S. 学びづくり案に、それぞれの子がこの時間に何ができるようになったか子どもも先生もわかりやすいめあてにしましょう。その時間に何ができたかよいのかを明確にすることで、こちらもそこを評価することができますし、子どもも何をすればよいのかが分かりますね。

T. 今日の授業の中で、ジェスチャーゲームをしました。いつも落ち込み気味で自分で考えることが苦手な子が、自分からどんなジェスチャーがいいのかを考えてみようとする姿が見られました。挑戦する子どもの姿に、成長を感じました。



S. 授業を通してどんな力をつけたいのか、より具体的な子どもの姿で考えましょう。その子がより達成できたと思えるように、その子にとってわかりやすい目標、この姿を目指せばよいと分かるめあてにするといいですね。

例えば、「全身を使ってジェスチャーをすることができる」だと、全身を使ってジェスチャーができなかったら、この子のめあては達成できないことになります。この子の実態は、「自分の思いを伝えることが苦手である」なので、ジェスチャーがわかっただけではなく、どう動けば相手に伝わるようなジェスチャーをするのかをクラスの子と話し合う姿が見られたことが自立活動のよさですね。

#### Point③

- ・ 目標を達成した姿を複数考えましょう。